

## 学生実習の集大成

今年、2025 年の 7 月 7 日より 4 週間、あがの市民病院で総合診療学の臨床実習をさせていただきました。お忙しい業務の合間を縫って毎日ご指導いただき、非常に実りのある実習となりました。私にとっては、この実習が学生としての最後の実習でもあり、節目として大変印象深いものとなりました。

思い返せば、5 年次の初めに受けた十日町病院での総合診療実習から始まり、最後も同じく総合診療で締めくくるというのは、非常に感慨深いものがあります。あの頃と比べて、現場での立ち振る舞いや思考のスピードなど、自分の成長を実感することができました。あがの市民病院での実習は、そういった意味でも、この 1 年半の臨床実習の集大成と呼べるものでした。

私は、「自分の力が最も試される場」とは、人前に出るときだと考えています。指導医や上級医の前でプレゼンテーションをする場面、患者さんと 1 対 1 で問診・診察・説明を行う場面などが、その代表です。本実習では、まさにそうした場面を多く経験させていただき、1 年前の自分からの成長をはっきりと感ずることができました。もちろんまだまだ未熟な点がありますが、初期研修に向けて実りある学びを積むことができたと実感しております。

特に印象に残っているのは、夜間当直の見学です。さまざまな背景を抱えた患者さんが救急外来に訪れ、診断や治療だけでなく、帰宅や入院の判断、社会的背景への対応など、医学的知識以外の力も求められる現場を目の当たりにしました。こうした場面に柔軟に対応し、患者さん一人ひとりに向き合える姿勢と知識を、今後の研修を通じて身につけていきたいと強く感じました。

短い期間ではありましたが、実習を支えてくださったすべてのスタッフの皆さまに、心より御礼申し上げます。ありがとうございました。